

# 図書館だより



No. 2

平成 28 年 5 月 27 日発行

学年が変わってから初めての中間考査が先週終わりました。考査前には図書館でも勉強に励むみなさんの姿がいつも以上に多く見られましたが、納得のいく結果を出すことはできたでしょうか。納得のいった人もいかなかった人もここで気を抜かず、期末に向けて頑張っていきましょう。図書館には、勉強法や基礎学力を身に付けるための本も充実して揃えてあります。そうした本も活用していきましょう。



中間考査の次は体育大会です。競技だけでなく、応援練習にもみなさん熱が入っているように感じますが、当日はその成果を発揮し、どの色団も優勝目指して頑張ってください。当日の天候が心配なところではありますが、晴れることを祈りましょう。梅雨入りの時期が近くなってきましたが、雨続きになる前に外出も楽しんでおきたいところですね。6月には紫陽花が見ごろを迎えますが、所沢のゆり園でもゆりの花が見ごろを迎えます。50種類、約45万株のゆりに心を癒されに出かけてみませんか。

## 秩父の楽しさ再発見\*

### 291-ル 『るるぶ あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』 JTBパブリッシング

2011年に放映されたアニメ「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない」は「あの花」の愛称で人気を博し、その後、劇場版が公開され、漫画化、小説化もされました。「あの花」の舞台 秩父市には「あの花」のファンが多く観光に訪れているのだそう。そんなファンのために秩父を「あの花」のストーリーや場面に沿って紹介したガイドブックです。アニメのシーンと実際の場所の写真を使って、丁寧な案内がされているのでこの本さえあれば、「あの花」観光がばっちりできます。また純粋に観光ガイドとしても役立つ内容で、「あの花」を知らない人でも秩父観光の目玉スポットやおすすめグルメを知って楽しむことができます。

## 自転車でお出かけも楽しそう\*

### 786-ホ 『自転車女子はじめました』 北条 晶 || 著 竹書房

学校や駅までの移動手段として使う自転車ではなく、楽しむ自転車もはじめてみませんか。自転車で観光を楽しむこと、ぶらっと走ることをポタリングと呼ぶのだそうです。この本では、久方ぶりに自転車をガレージから引っ張り出した著者が、このポタリングを楽しむ様子を描いています。爽やかな風を感じながら、どこまでも走って行く様子はとても気持ちよさそうです(その後の筋肉痛はちょっと怖いですが)。またポタリング先で出会った景色、疲れた体を癒す温泉や食事などからもポタリングの魅力が伝わってきます。自転車の基礎知識やあると便利な自転車グッズも紹介されているので、ポタリングに興味を持った人はそちらも要チェック。

## シェイクスピア没後400年

今年にはイギリスの文豪ウィリアム・シェイクスピアの没後400年にあたる年です。シェイクスピアがその生涯で生み出した『ロミオとジュリエット』、『ハムレット』、『十二夜』、『マクベス』など数多くの名作は、今なお読み継がれ、上演され続けています。みなさんもどこかでシェイクスピアの作品には触れて来ているのではないのでしょうか。先日亡くなられた蜷川幸雄さんも、彩の国さいたま劇場でシェイクスピア全 37 作品の上演を試みていました。藤原竜也や多部未華子なども起用され、若い人にも馴染みやすい舞台だったようです。没後400年となる節目のこの年に、せめてシェイクスピアに関連した本を読み、今よりもっとシェイクスピアを知ってみませんか。

### 『佐々木蔵之介 動く森 一スコットランド「マクベス」紀行 福山楡青 || 撮影 扶桑社』

シェイクスピアの4大悲劇『ハムレット』『オセロー』『リア王』そして『マクベス』 実在のスコットランド王マクベスを題材にした『マクベス』には、陰惨なイメージが強く印象に残ります。荒野に出現した魔女たちは怪しげに予言し、真夜中の古城で血が流され、殺人者は手にこびりついた血にうなされ彷徨う。スコットランドにはまだその荒野や古城が残っています。マクベスを演じた佐々木さんがナビゲートするその地をこの写真集で見れば、作品世界を肌で感じられる気がします。もっとも史実ではマクベスは悪い王を倒し、17年という長期にわたり統治能力を発揮したそうですが。

### 『シェイクスピアを追え!』 エリック・ラスムッセン || 著 岩波書店

ファースト・フォリオとは、シェイクスピアの戯曲をまとめて出版された最初の作品集です。ファースト・フォリオは現在、知られているかぎり、全世界に232冊あると言われており、2014年には233冊目がフランスで発見されました。著者がハンターたちとチームを組んで地球上を駆け巡り、調査した成果として知り得た情報の宝がこの本に記録されています。世界に点在するファースト・フォリオが現在まで、どんな歴史を辿ってきたのか、またこのファースト・フォリオに魅せられ、翻弄された人々の人生がどんなものだったのかが、この本から浮かび上がってきます。

## 6月の図書館イベント

ミニおはなし会	映写会
日時:6月16日(木)	日時:6月23日(木)
15:15~ 15:30	15:10~
場所:秋草記念館 図書館	場所:秋草記念館2階 桔梗ホール
内容:絵本「はらぺこあおむし」 群読「おむすびころりん」など	上映作品:『oranje -オレンジ-』
今回はミニマムにやりますので、気軽に見に来てください。本と声とを楽しめます!!	10年後の私から手紙が届く。「26歳になった私には後悔していることがあります。それは転校生の翔(かける)のこと」

## 🇯🇵 ニッポン再発見 🇯🇵

ニッポン再発見第2回は東北(青森、秋田、岩手、宮城、山形、福島)です。青森のねぶた、りんご、恐山、秋田のなまはげ、きりたんぼ、岩手の中尊寺、浄土ヶ浜、宮城の松島、青葉城址、山形の花笠まつり、さくらんぼ、福島の鶴ヶ城、磐梯山など、今パッと一県ずつ思い浮んだものを挙げてみても一度は訪れ、目にしてみたい魅力や食べてみたい名産がいっぱいです。また今月、岩手では5日(日)に前沢牛グルメ屋台や牛の鳴きまねコンテストなどの催しが行われる“前沢牛まつり”が、山形では18日(土)、19日(日)に流しそうめんならぬ、流しさくらんぼやさくらんぼの種飛ばしなどの催しが行われる“さくらんぼ日本一祭り”があります。こうしたその地域ならではの祭りに参加するのも楽しそうですね。



### 『津軽』を読んで青森へ行こう

910.2-ダ 『太宰治と旅する津軽』 太宰 治 / 小松健一 / 新潮社 || 編 新潮社

青森を代表する作家の一人、太宰治。彼の作品に『津軽』という小説があります。この小説には、風土記の執筆依頼を受け、太宰が3週間に渡って津軽半島を一周した時の様子が描かれています。この小説『津軽』に沿いながら、太宰の旅した津軽半島がどのような土地であるかを文章と写真で追っていきます。三厩から竜飛に向かった場面での「それは、もはや、風景ではなかった」、五所川原から半島北部西岸へ向かうバスの車窓から見た十三湖の「浅い真珠貝に水を盛ったような、気品はあるがはかない感じの湖である」など『津軽』本文からの抜粋を読みながら、写真の風景を眺めていると、自分も太宰の旅を体験しているかのような気分になります。興味を持った人は『津軽』もぜひ読んでみてください。

### 柳田国男×京極夏彦

E-ヤ 『やまびと』 柳田 国男 || 原作 京極 夏彦 || 文 中川 学 || 絵 汐文社

岩手県の中央部に位置する遠野。この地方に伝わる神や妖怪などの話、家々の伝承などを柳田国男が百十九話にまとめたものを『遠野物語』と言います。その『遠野物語』を小説家であり、妖怪研究者でもある京極夏彦が新たな語りでえほん遠野物語として発表しました。

この絵本で語られているのは、遠野の山々に住むと言われる「山人(やまびと)」の話。獵のために山に入った男が、山奥で出会ったひとりの美しい女。女の正体は何なのか。山人とは、何者なのか。短いストーリーなのですが、読んでみると、スッと絵と物語の中に引き込まれていき、読み終わっても、また何度も読み返したくなる不思議な読了感があります。山で出会った美しい女の『おそろしいです』というセリフに思わず背筋がぞっとします。

### 綿で繋がる人と人

618-ミ 『東北コットンプロジェクト』 宮川 真紀 || 文 中野 幸英 || 写真 タバックス

東日本大震災で津波被害を受けた農地。そこに塩害に強いと言われる綿(コットン)を植え、綿製品として販売し、被災地の復興支援、雇用創出を目指す「東北コットンプロジェクト」が行われています。プロジェクトを起こしたのは、被災地支援として何ができるのか、その答えとして「東北にコットンを」とブランドの垣根を越え立ち上がったアパレル業界の人々です。生活がまだ混乱している被災地で、コットンの種を蒔かせる土地を探し、農家と力を合わせ、荒野を農地に戻し、種を蒔く。雑草や害虫には人力で対処、収穫を間近にしての台風による被害などを経て、待望の収穫祭。貴重なこのコットンを製造工程も全て国内で行い、東北コットンプロジェクト製品が完成。人と人が繋がり、今も大きな広がりを見せるこのプロジェクトのスタートから今までを追った記録です。

### 🐱 図書館司書の「今月はこの本を読みました」 🐱

書名がずっと気になっていた七月隆文さんの『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』(B913.6-ナ 宝島社)を読みました。京都の美大に通うぼくは、京阪電車の中で一目ぼれをする。この瞬間を逃したら二度と会えないかもしれない、そう思うと居ても立ってもいられず、ぼくは彼女の後を追いかけて、想いを伝えてしまう。そんな急展開がしょっぱなから起こります。初対面で突然告白されてもなあ…と思うところですが、なんとこの後、ふたりはトントン拍子で恋人になります。恋人同士になったふたりはとっても幸せそうなのですが、合間合間に彼女が見せる不思議な言動にぼくも読者も気づいてしまいます。そして、彼女の口から信じられないような真実を聞かされます。その複雑なふたりの運命に切なくなるばかりですが、『端と端を結んだ輪になって、ひとつにつながってるんだ』というぼくの言葉に救われました。真実を踏まえ、もう一度読み返すと、より彼女の気持ちが伝わってきますよ〜。【今井】



一部の生徒の間で『文豪ストレイドッグス』朝霧カフカ || 著(B913.6—7 KADOKAWA)が流行っています。アニメ化もされ、楽しそうです。『走れメロス』や『人間失格』で有名な太宰治 や『武蔵野』や『巡査』の国木田独歩、『山月記』の中島敦などが、異能と呼ばれる力で横浜を舞台にマフィアと渡り合うらしいのです。それぞれの異能力は作品にちなんだもので、中島敦は虎に変身します。そういえば織田作之助についての問い合わせがあったのも、この本がきっかけなのでしょう。だったら『文豪ストレイドッグス』を展示しアピールしたら、登場人物である文豪たちの作品がもっと読まれるかもしれません。そんな下心を持って、下準備の一環で読んでみました。1巻から3巻までを図書館の棚から借りて読み始めたのですが、なぜか3巻を読んでしまいました。うっかりです。でも3巻は文豪たちの働く武装探偵社の設立に至った昔話だったので、問題なし。次に2巻を読みました。信じられないですが、これもうっかりです。ただ、2巻も太宰が武装探偵社に入社したいきさつという昔話だったので、問題なし。そして読んだ1巻目。結局、時系列にそって読む天邪鬼になってしまいました。それではぜひ展示を見に来てください。【鈴木】